

今が見ごろです！ 石狩の花・ハマナス

石狩市の花・ハマナスが6月中旬から見ごろを迎えます。ハマナスは野生バラの一種で、紅紫色の花とトゲの多い茎が特徴の落葉低木。道内の砂浜に広く自生していますが、中でも「はまなすの丘公園」は道内有数の群生地として知られています。

「通常は1mくらいまで成長しますが、公園内のハマナスはほとんどが10cm程度」とは石狩浜海浜植物保護センターの内藤華子さん。「石狩の海岸は海と川に挟まれているので、風が強く、冬も雪が積もりません。そのような厳しい環境を生き抜くためにハマナスは丈を低くし、地を這ってたくましく生きています」。

見ごろを迎えると、花がまるでじゅうたんのように砂丘を埋め尽くし、濃厚で甘い香りが辺り一面に漂います。「去年は5～6月の気温が低かったので、花の咲きがまばらでした。去年は咲かなかった花が栄養を蓄え、今年はよりたくさんの花が咲いてくれることを期待しています」。

ハマナスは香水やハーブティーの原料としても使われることがあり、石狩でもその実を使った商品開発が進められているそうです。「ハマナスは石狩市を代表する大切な花。これからも市民とともに大事に守っていききたいですね」。



◀▼ハマナスの花とその実(写真右)。



▶はまなすの丘ビジターセンターには、ハマナスグッズがいろいろあります！写真のほかにもハマナスのソフトクリームやジャムが人気です。



6月は「石狩市環境月間」。「はまなすの丘公園」ではハマナスのほかにも、さまざまな海浜植物が花を咲かせる季節です。

6月16日(土)には、「石狩浜海鑑賞会」(17ページ参照)も開催。ぜひご参加ください。



▲ハマヒルガオ
6～7月にかけて花が咲きます。ハート型の葉がかわいらしい。



▲ハマボウフウ
白い小さな花が集まって咲き、見ごろは7月いっぱい。市では昭和53年に保護地区に指定し、乱採から守っています。



▲エゾスカシユリ
オレンジ色の大きな花が魅力。花期は6月で、海岸草原に点在しますが、近年、減少傾向にあるのが気になるところ。

圃石狩浜海浜植物保護センター ☎60-6107
はまなすの丘公園ビジターセンター ☎62-3450

ハマナスの句

◆江戸も終わりのころ、この地へ石狩に俳句の結社が誕生した。その名を「尚古社」と名付け、作品を今に伝えている。残念なことに近年その姿を失っていたが、最近俳句によるまちおこしが始まり、全国公募や秀作の句碑建立がなされた。同時に著名俳人の来石や、句会が催されるなど、弁天歴史通りに一つの風情を醸し出し始めた。◆これらの作品の中に「浜茄子」が数多く詠まれている。茫漠たる石狩砂丘と、咲き競う紅の花のコントラストは作者の心を動かすには十分過ぎるモチーフなのであろう。へ先駆けの玫瑰の芽の真紅―有馬朗人への石碑は、高浜虚子ゆかりの方々により弁天歴史公園内の丘陵に座っている。◆ところで、「ハマナス」か「ハマナシ」かの論争はどうなったのであろう。学名を付けた際の權威と、その後の科学的論拠による対立でもあるのか。主役は我関せず、今年も間もなく訪れる方々の心を和ませてくれる。

(市長)

求む！日の出正宗のラベル

長野商店の包装紙



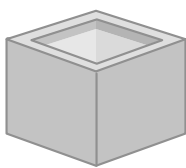
市指定有形文化財旧日長野商店の正面に大阪堺の清酒「千歳」の金看板を掲げましたが、実は長野商店でも明治半ばから大正にかけて酒を造っていました。製品は清酒、濁酒、焼酎の3種で、確認された年間総醸造量232石、二升瓶にして約2万3千本余りです。工場は八幡町にあり、船で親船町の店まで運んで売っていました。本町側に醸造場を設けなかったのは、水が良くなかったからだという話が伝わっています。明治時代の石狩市(厚田区、浜益区を含む)では地酒のほか、大阪の酒、山形の酒、新潟の酒が移入され、料理屋、貸し座敷、漁場で大量に消費されていました。

石狩市の酒造りの歴史は、今のところ明治半ばまでさかのぼることが可能ですが、詳しいことになるとまだまだ不明な点が多くあります。これまでの調査では、明治26年当時、石狩本町地区に長野商店を含め3軒の造り酒屋があつたことが確認されてきました。ところが最近、石狩市地方史研究会の新聞調査で、明治20年に石狩本町地区に9軒、明治21年に厚田区に5軒の造り酒屋があつたことが分かってきました。しかし、これらの酒屋がいつまで、どんな銘柄の酒を造っていたのかという点や、樽や瓶に張つたラベルがあつたのかどうかなど、細かな点は全く分かっていません。ただ、今回の長野商店の復元に当たり、長野家から寄贈された漆器の箱の中から明治期末あるいは大正期とみられる長野商店の包装紙がようやく見つかり、それに「日の出正宗醸造元」と書いてありました。これまでの記録では長野商店の酒の名前については具体的ではなく、この包装紙

は石狩市の酒造史に新たなページを加える大きな発見となりました。

長野商店の展示では、この「日の出正宗」という名前をヒントに、想像上のラベルを製作して一升瓶に張って展示しています。

包装紙が残っているなら、どこかの蔵の隅に「日の出正宗」のラベルの張つた瓶あるいは一斗樽が密かに眠っているのではないかと期待しています。どなたか、「日の出正宗」のラベルを知りませんか！
どんな些細な情報でも提供してください。お待ちしております。
(石橋孝夫)



想像上の日の出正宗ラベル

■文化財課・いしかり砂丘の風資料館
☎62-3711
✉bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp